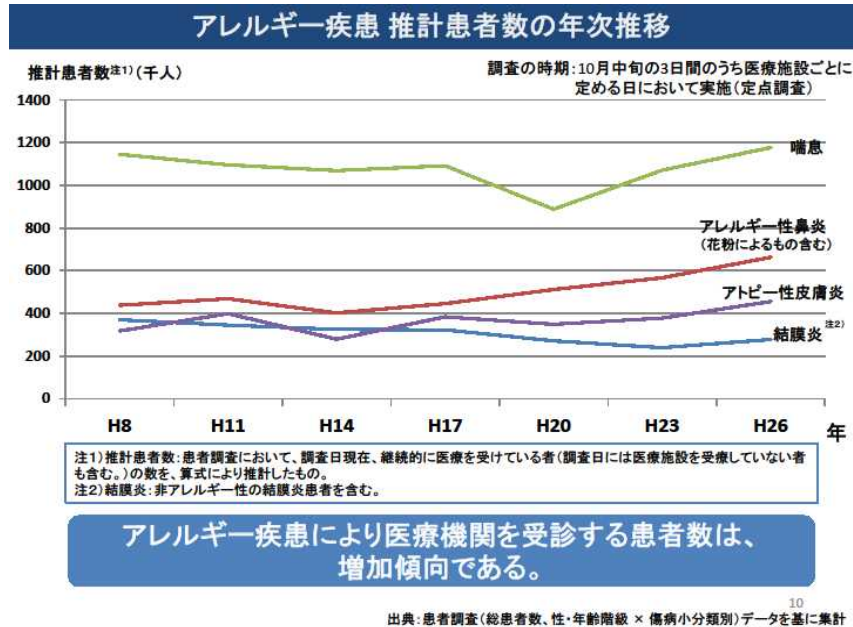


本県のアレルギー疾患の状況について

1. 全国におけるアレルギー疾患推計患者数

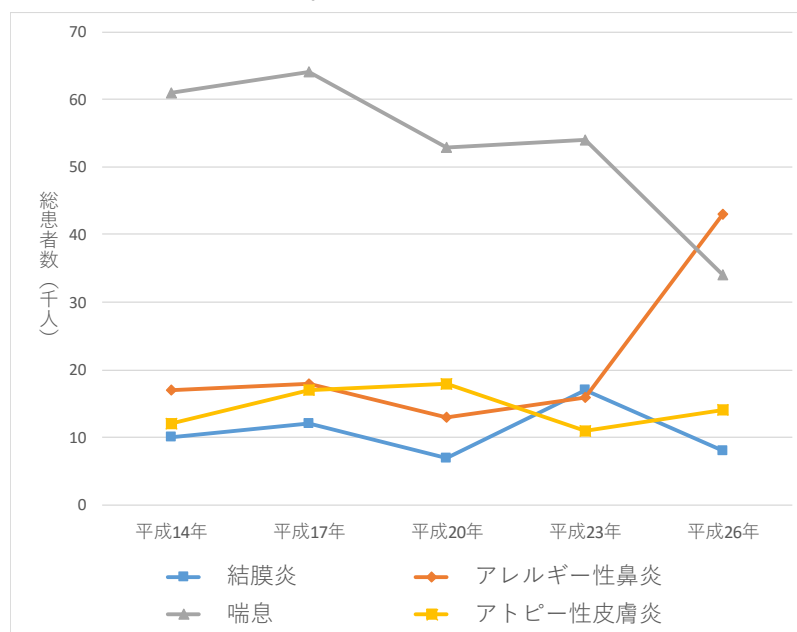
アレルギー疾患により医療機関を受診する患者数は、増加傾向にあります。



出典：第1回アレルギー疾患対策推進協議会資料(厚生労働省)

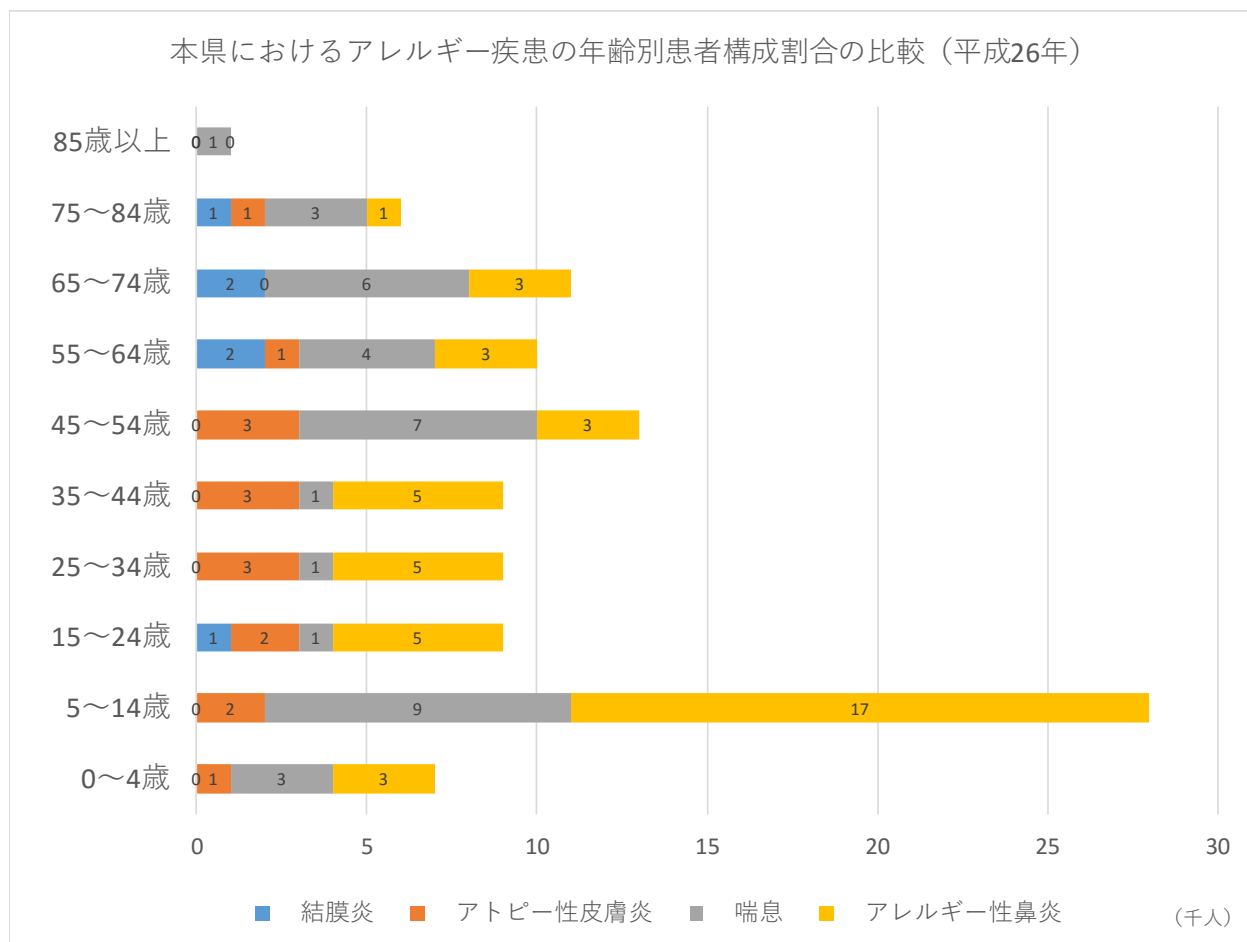
2. 本県におけるアレルギー疾患の患者

患者調査(厚生労働省)によると、本県のアレルギー疾患に関連する患者数は、平成26年では「アレルギー性鼻炎」で43,000人、「喘息」で34,000人、「アトピー性皮膚炎」で14,000人となっています。



資料：厚生労働省患者調査(総患者数、性・年齢階級、傷病小分類、都道府県)を基に作成

平成26年患者調査における本県でのアレルギー疾患の年齢別患者構成割合では、「5～14歳」で患者数が最も多く、「喘息」や「アレルギー性鼻炎」の患者数はこの年代で最も多い状況です。

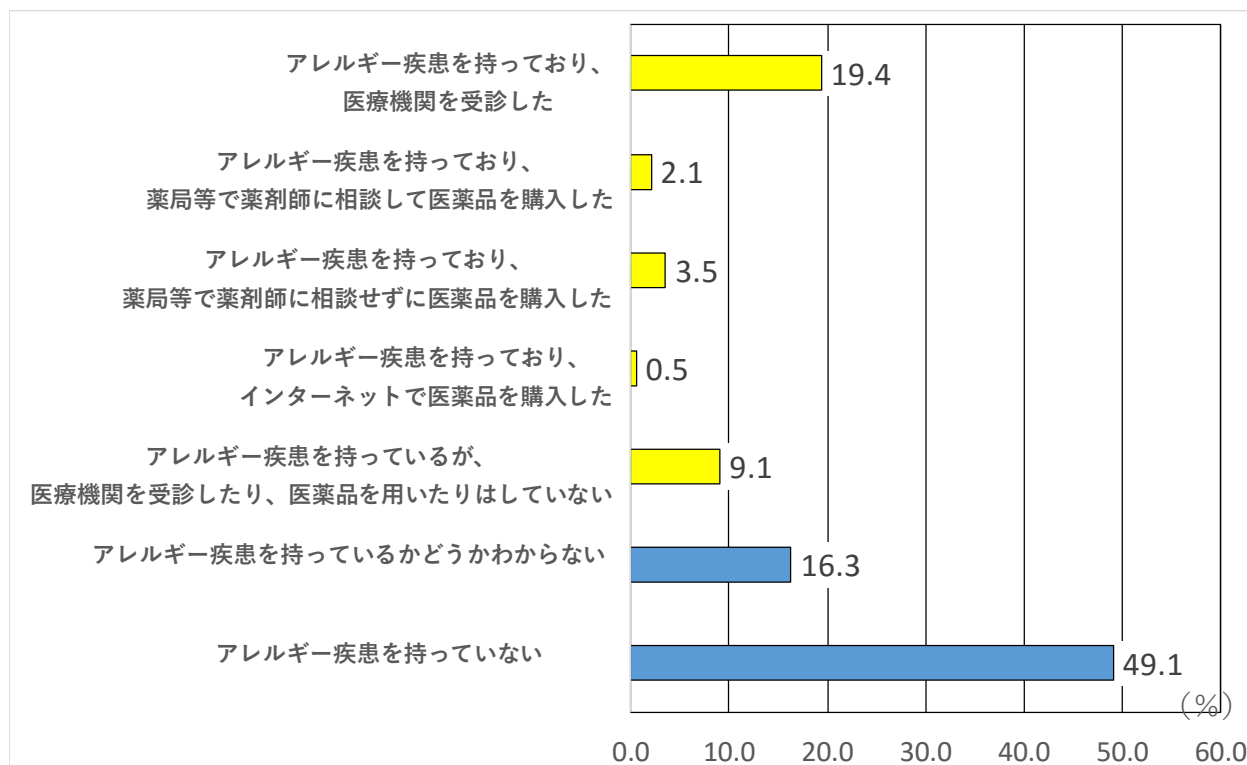


出典：厚生労働省患者調査（総患者数、性・年齢階級、傷病小分類別、都道府県）を基に作成

3. アレルギー疾患に係る受療状況

平成29年度に千葉県が行った「医療に関する県民意識調査」によると、34.6%の者がアレルギー疾患（気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、食物アレルギー等）を有していると回答し、最近1年間に医療機関の受診や医薬品の購入をしている者は25.5%にのぼりました。

図表 アレルギー疾患に係る受療状況（千葉県）

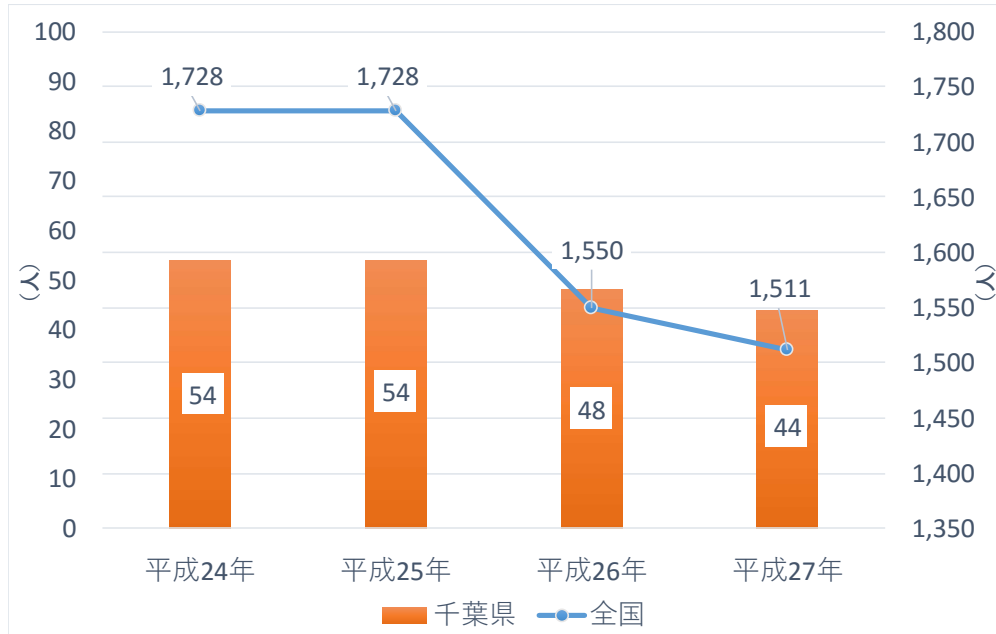


資料：医療に関する県民意識調査（平成29年 千葉県）

4. 喘息死の状況

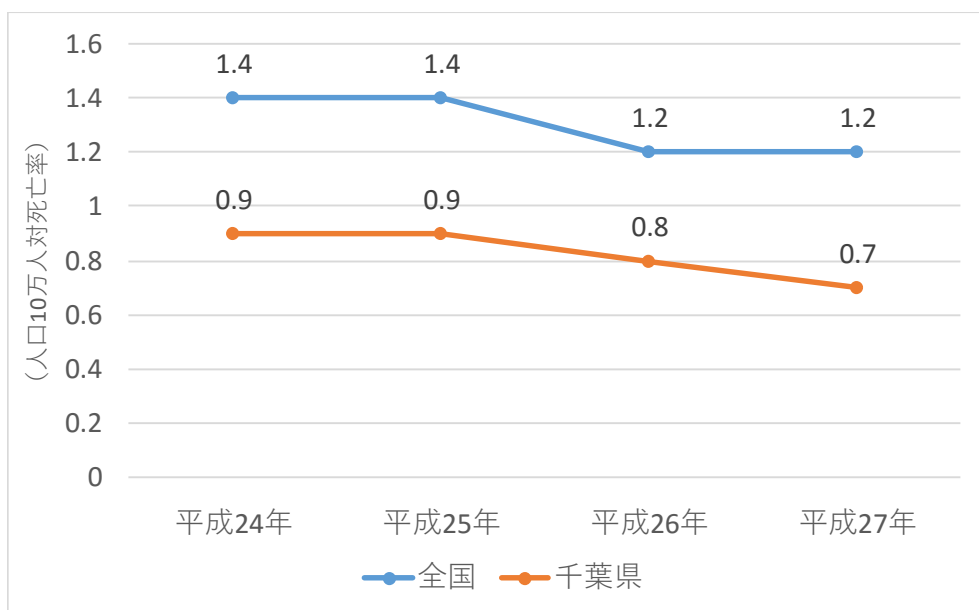
人口動態調査（厚生労働省）によると、喘息による死亡者数は減少傾向にあります。

(1) 死亡者数



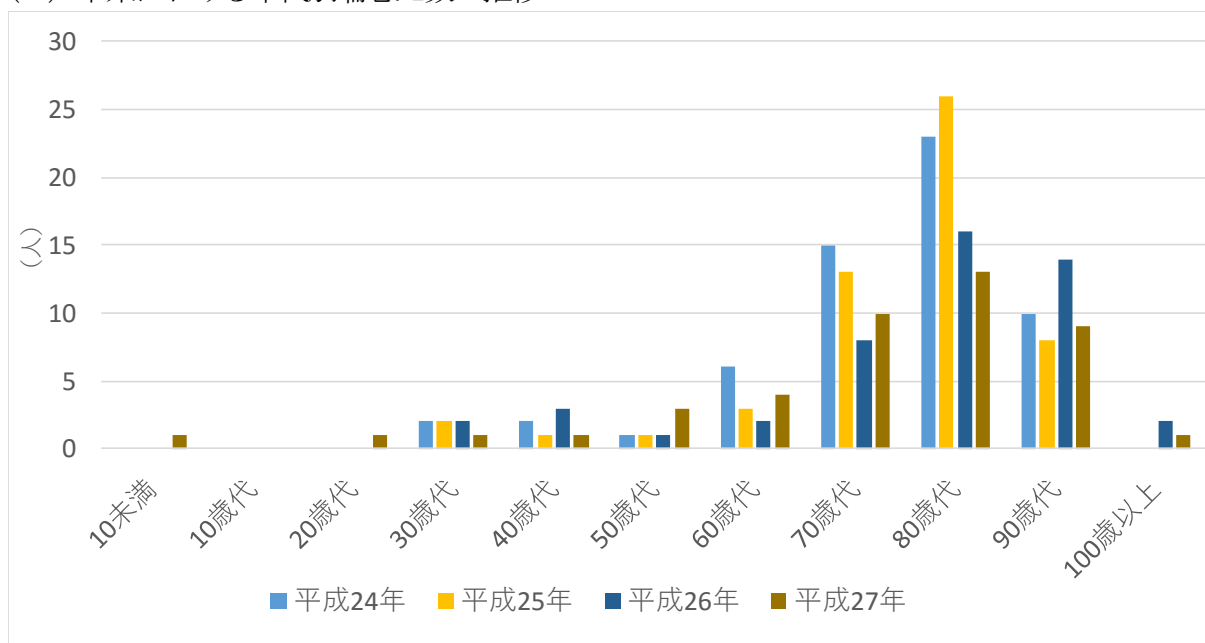
出典：人口動態統計データを基に集計

(2) 死亡率



出典：人口動態統計データを基に集計

(3) 本県における年代別喘息死数の推移

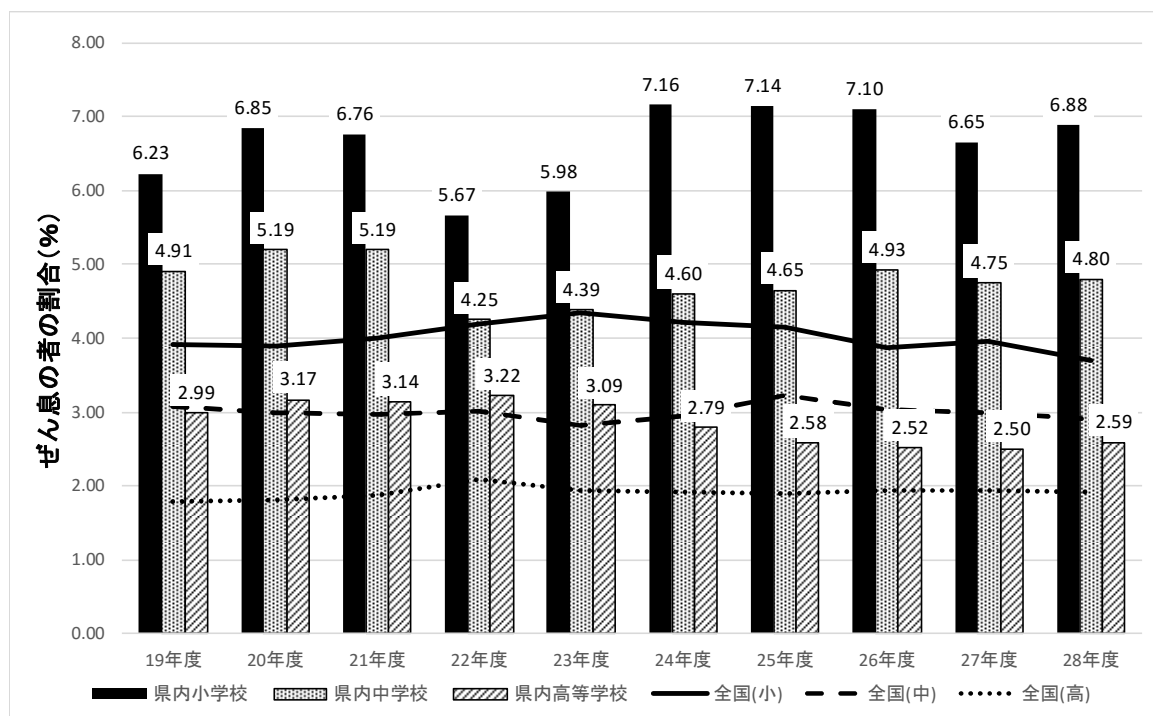


出典：人口動態統計データを基に集計

※ 厚生労働省平成 26 年人口動態調査「上巻死亡第 5. 19表都道府県(21 大都市再掲)別にみた死因簡単分類別死亡率(人口10万対)」、「下巻死亡第4表 死亡数, 性・死因(死因簡単分類)・都道府県(21 大都市再掲)別」から抜粋

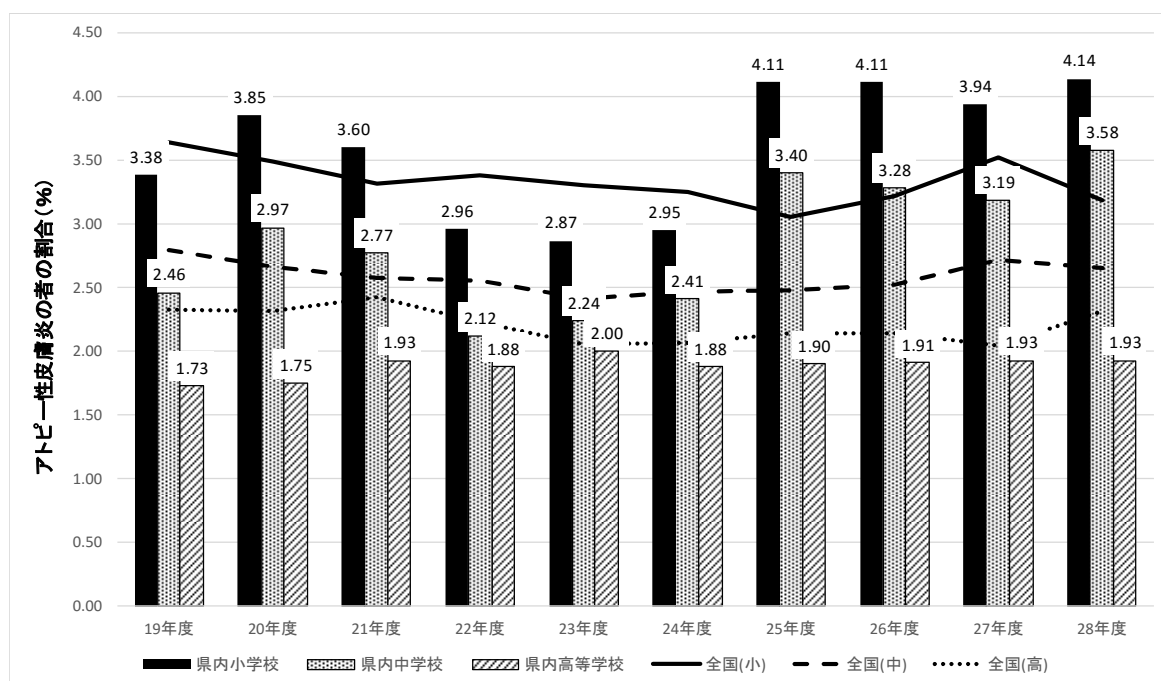
5. 公立学校におけるアレルギー疾患を有する児童・生徒の状況

(1) ぜん息



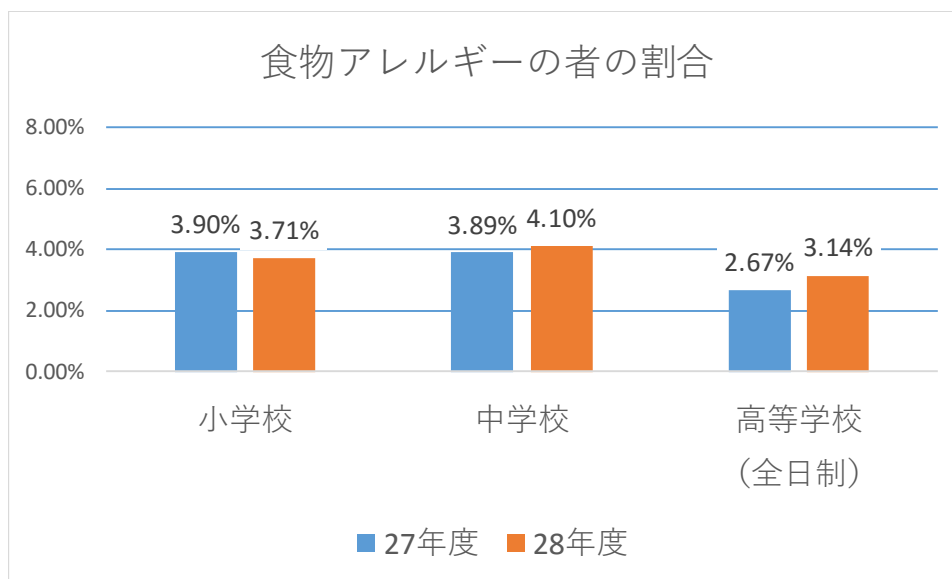
出典：平成28年度千葉県児童生徒定期健康診断結果

(2) アトピー性皮膚炎



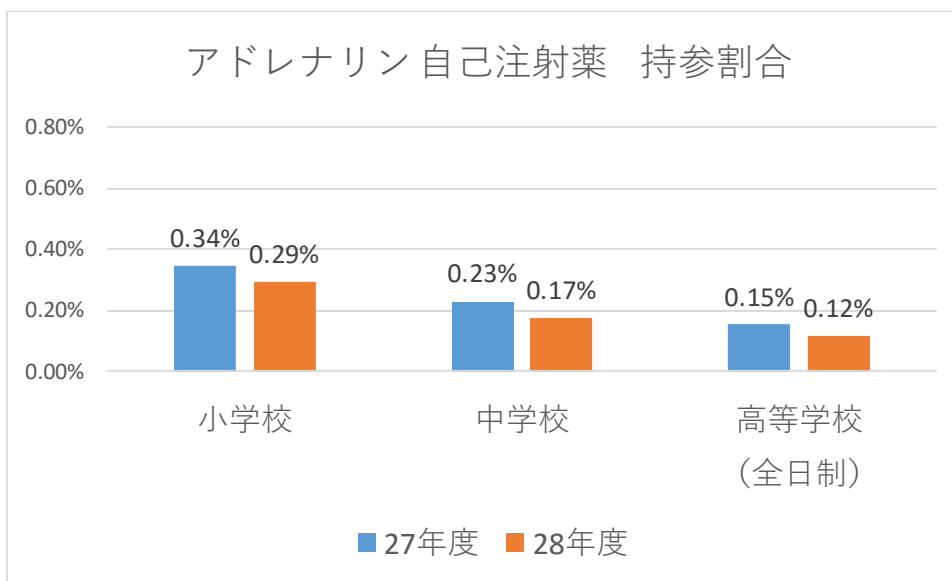
出典：平成28年度千葉県児童生徒定期健康診断結果

(3) 食物アレルギー



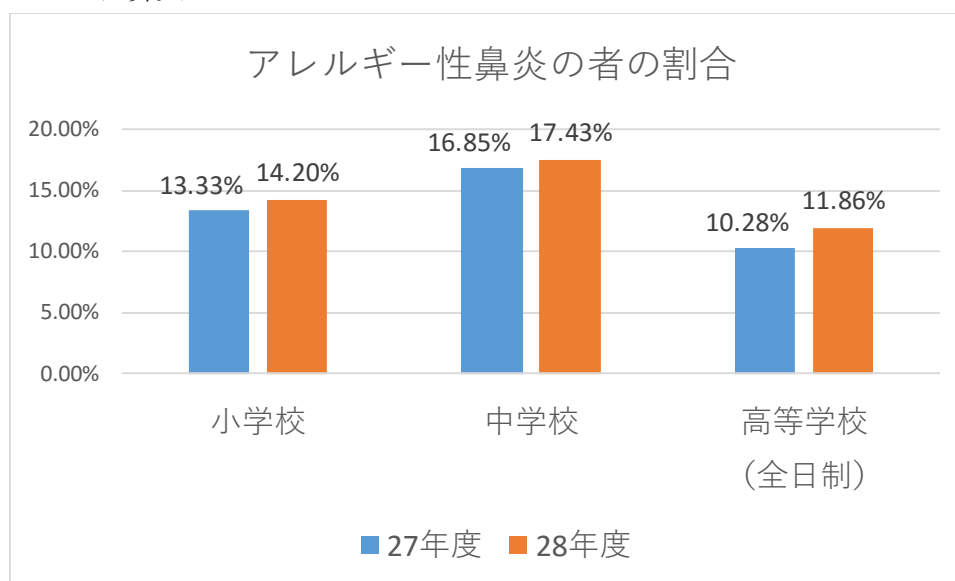
出典：千葉県児童生徒定期健康診断結果を基に作成

(4) 食物アレルギーと診断されアドレナリン自己注射薬の処方を受けて学校に持参している者



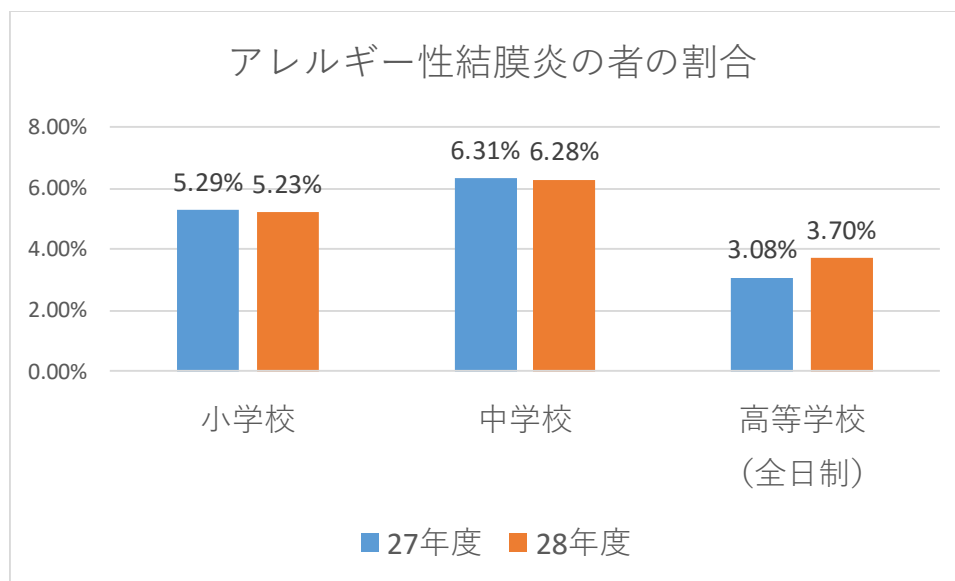
出典：千葉県児童生徒定期健康診断結果を基に作成

(5) アレルギー性鼻炎



出典：千葉県児童生徒定期健康診断結果を基に作成

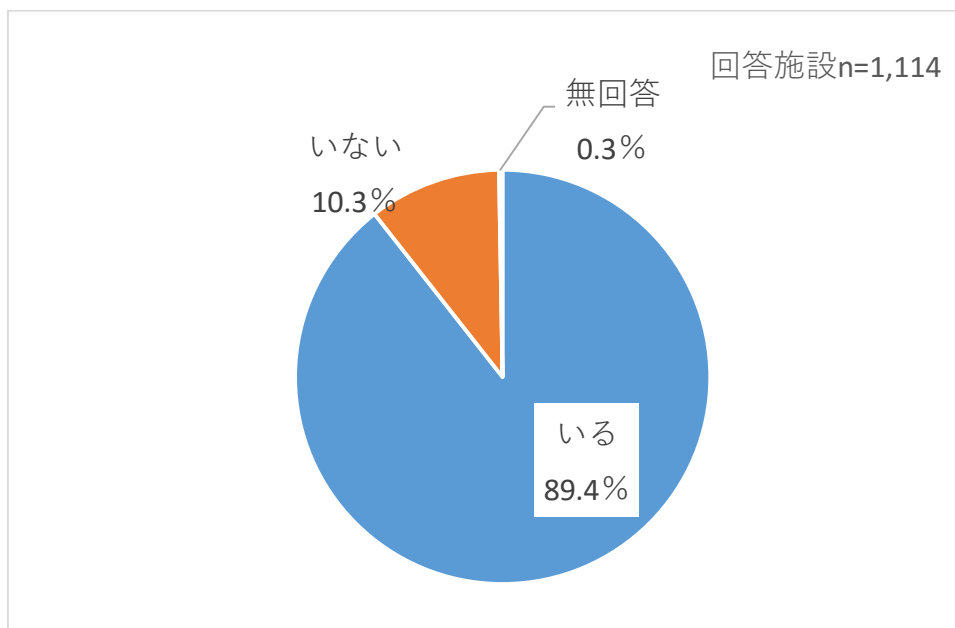
(6) アレルギー性結膜炎



出典：千葉県児童生徒定期健康診断結果を基に作成

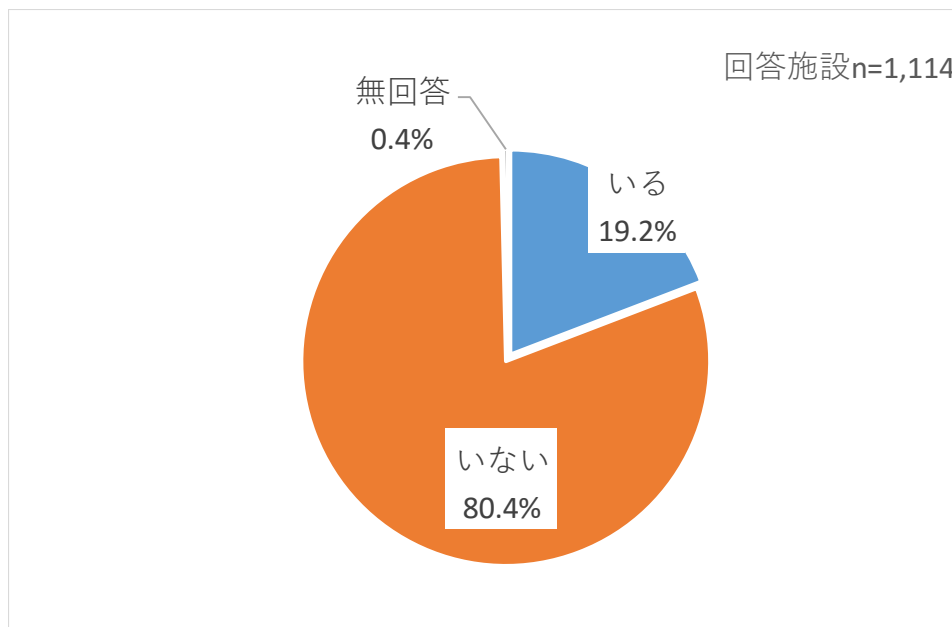
6. 県内の未就学児（保育所・幼稚園）における食物アレルギーの状況

(1) 施設における食物アレルギーのために食物除去を行っている児童の有無



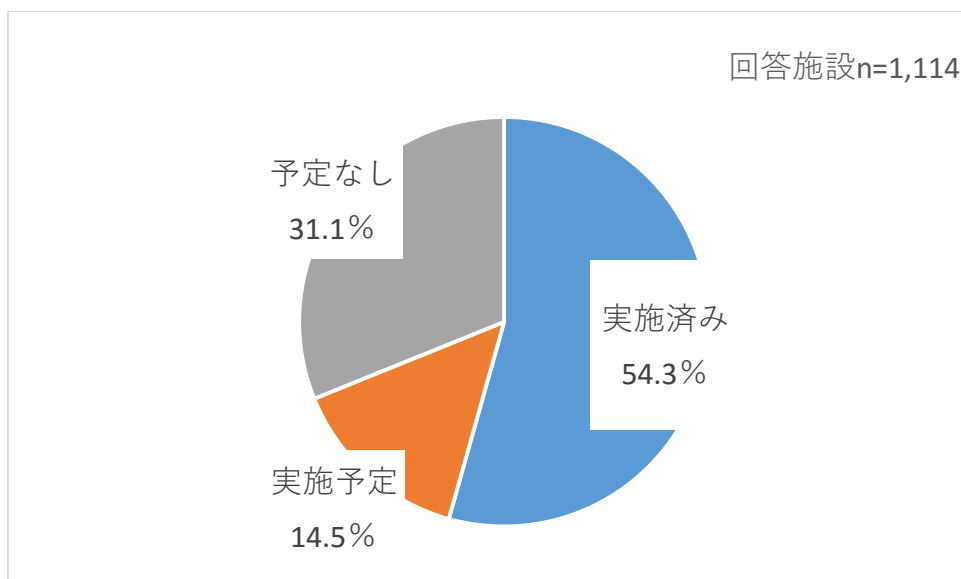
出典：公益社団法人千葉県医師会「平成27年度「未就学児（保育所・幼稚園）及び学校（児童・生徒）における食物アレルギーに関する調査」を基に作成

(2) 施設におけるエピペン®を処方されている児童の有無



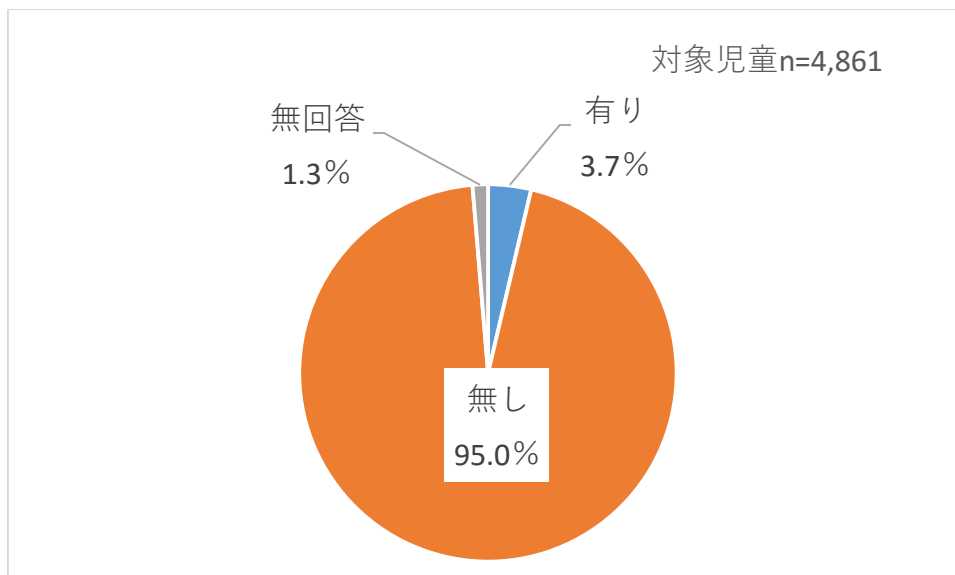
出典：公益社団法人千葉県医師会「平成27年度「未就学児（保育所・幼稚園）及び学校（児童・生徒）における食物アレルギーに関する調査」を基に作成

(3) 施設におけるエピペン®使用法を含む緊急時対応研修



出典：公益社団法人千葉県医師会「平成27年度「未就学児（保育所・幼稚園）及び学校（児童・生徒）における食物アレルギーに関する調査」を基に作成

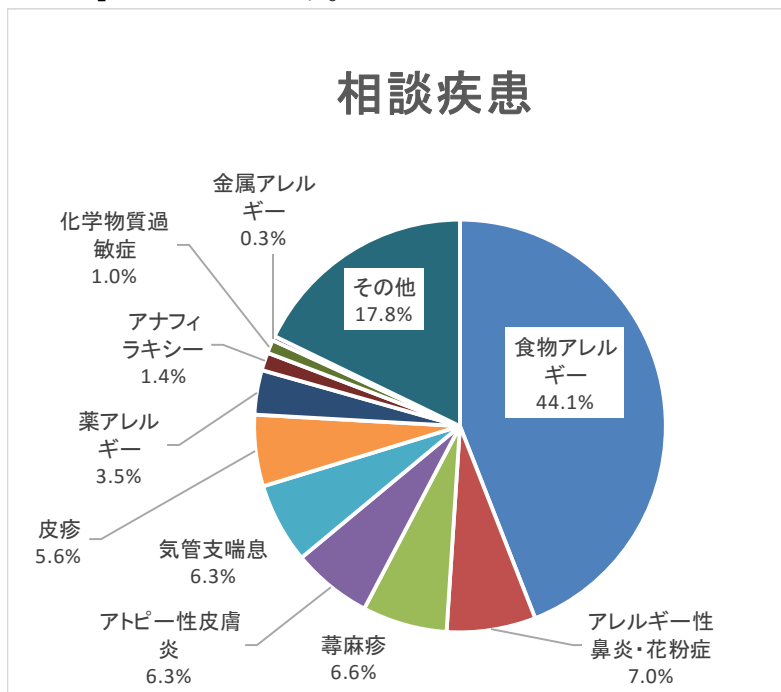
(4) 緊急時の場合の消防機関との情報共有の有無について



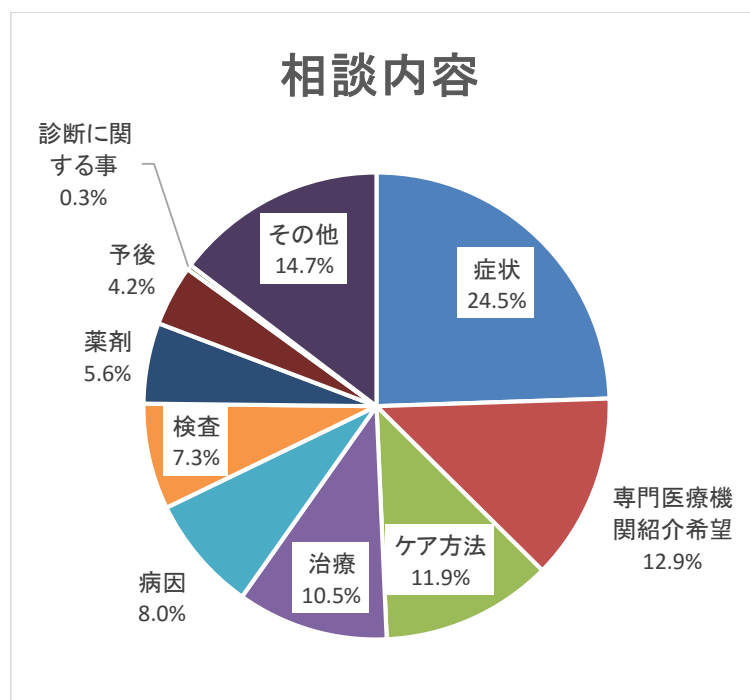
出典：公益社団法人千葉県医師会「平成27年度「未就学児（保育所・幼稚園）及び学校（児童・生徒）における食物アレルギーに関する調査」を基に作成

7. アレルギー相談センターに寄せられる相談

平成28年度に千葉県アレルギー相談センターによせられた相談内容については、「食物アレルギーに関すること」が最も多く、次いで「アレルギー性鼻炎・花粉症に関すること」、「蕁麻疹に関すること」となっています。



資料：千葉県アレルギー相談センター実績



資料：千葉県アレルギー相談センター実績

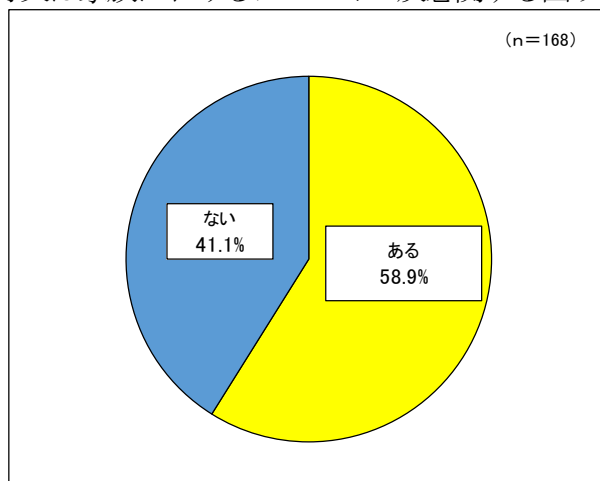
8. アレルギー疾患に伴う生活等への支障

平成29年8月に千葉県が行った「平成29年度第2回インターネットアンケート調査」によると、58.9%の方が自身又は家族のことでアレルギー疾患に関して困りごとがあると回答しました。

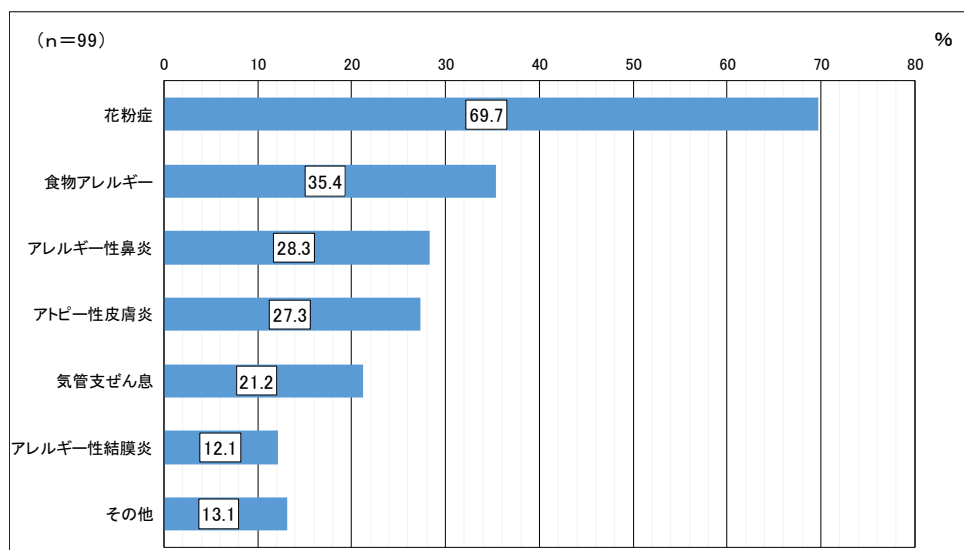
また、原因のアレルギー疾患についてたずねたところ、『花粉症』が69.7%と最も多く、次いで『食物アレルギー』が35.4%、『アレルギー性鼻炎』が28.3%、『アトピー性皮膚炎』が27.3%でした。

さらに、どのようなことで困っているかたずねたところ、『日常生活への影響について』が67.7%と最も多く、次いで『受診・治療について』が46.5%、『正しい情報を得る方法』が38.4%でした。

図表 自身又は家族におけるアレルギー疾患に関する困りごとの有無



図表 困っているアレルギー疾患



図表 困っている内容

